

赤平市地球温暖化対策実行計画の進捗状況について

赤平市では、地球温暖化対策の推進に関する法律第 21 条に基づき策定した地方公共団体実行計画（赤平市地球温暖化対策実行計画～赤平市役所エコオフィス化計画～）を平成 30 年度に改定し、公共施設等に関わる地球温暖化対策を進めています。

この度、令和 4 年度の二酸化炭素排出量の算定結果がまとまりましたので、計画の進捗状況を公表します。

住民・事業者のみなさんも、できることから地球温暖化対策に取り組んでまいりましょう。

1 二酸化炭素の排出状況

赤平市における令和 4 年度の二酸化炭素排出量は、5,844.8t でした。

基準年度である平成 25 年度と比較すると、1,751.2t 減少しました。

温室効果ガス総排出量を施設要因別に見ると、庁舎等の電気の使用に伴う排出が 25.9%を占め、次いで病院の電気の使用に伴う排出が 19.8%、教育施設等の電気の使用に伴う排出が 8.7%と、赤平市の全ての行政事務の約半分が電気の使用に伴うものとなっています。

排出量燃料種別では、電気の使用量が 54.4%、次いで A 重油の使用に伴う排出が 30.2%、灯油の使用に伴う排出が 9.3%、公用車の燃料が 5.4%を占めています。施設別での、CO2 排出量は、それぞれ基準年に対し庁舎等 24.8%、病院 23.7%、教育施設 19.5%、公用車 19.2%の削減となっています。

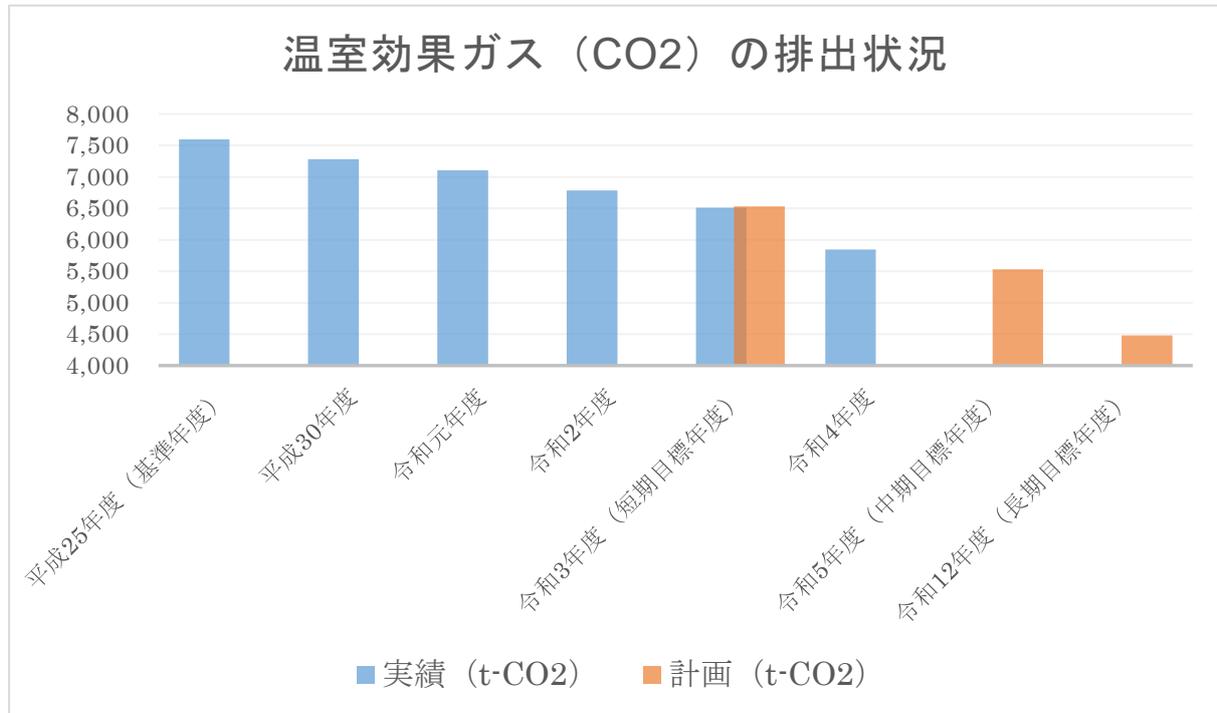
要因別温室効果ガス排出量

項目		単位	基準年度（平成 25 年度）			令和 4 年度			
			使用量	CO2 換算		使用量	CO2 換算		
				排出量 (t-CO2)	割合 (%)		排出量 (t-CO2)	割合 (%)	
庁舎等	庁舎等の燃料の使用	A 重油	ℓ	221,000	598.9	7.9	236,000	639.6	10.9
		灯油	ℓ	101,658	253.1	3.3	82,623	205.7	3.5
		軽油	ℓ	9,949	25.7	0.3	2,802	7.2	0.1
		ガソリン	ℓ	186	0.4	0.0	3,364	7.8	0.1
		LP ガス	m ³	1,490	9.8	0.1	1,654	10.9	0.2
	庁舎等の電気の使用	kWh	3,353,950	2,284.0	30.1	2,756,755	1,513.5	25.9	
小計				3,171.9	41.8		2,384.7	40.7	
教育委員会	教育施設等の燃料の使用	A 重油	ℓ	159,945	433.5	5.7	165,350	448.1	7.7
		灯油	ℓ	103,860	258.6	3.4	134,034	333.7	5.7
		軽油	ℓ	470	1.2	0.0	461	1.2	0.0
		ガソリン	ℓ	3,244	7.5	0.1	2,995	6.9	0.1
		LP ガス	m ³	398	2.6	0.0	251	1.7	0.0
	教育施設等の電気の使用	kWh	1,339,923	912.5	12.0	926,176	508.5	8.7	
小計				1,615.9	21.3		1,300.1	22.2	
病院	病院の燃料の使用	A 重油	ℓ	510,000	1,382.1	18.2	250,000	677.5	11.6
		灯油	ℓ	1,911	4.8	0.1	1,455	3.6	0.1
		LP ガス	m ³	1,568	10.3	0.1	1,093	7.2	0.1
	病院の電気の使用	kWh	1,504,629	1,024.7	13.5	2,111,655	1,159.3	19.8	
小計				2,421.8	31.9		1,847.6	31.6	
公用車	車両燃料の使用	ガソリン	ℓ	41,130	95.4	1.3	24,600	57.1	1.0
		軽油	ℓ	112,771	290.9	3.8	98,940	255.3	4.4
	小計				386.4	5.1		312.4	5.4
合計				7,596.0	100.0		5,844.8	100	

2 計画の進捗状況

前実行計画では排出量 5%以上の削減を目標として定め、未達成に終わりましたが、施設の統廃合や、一部の施設で LED 化等省エネ化を進めたことにより、CO2 排出量は基準年に対し 1,751.2t 減少の 5,844.8t という結果になりました。

今後、中期目標を達成するには、本年度（令和 5 年度）において 315t の削減を進めていく必要があります。



3 点検評価結果

基準年度と比較すると、病院の改築に伴う地中熱の利用による影響のほか、施設の統廃合及び庁舎等の照明器具の LED 化の効果もあり、CO2 排出量は減少しましたが、一方では、休止していた施設の再利用（平岸コミュニティセンター）や、炭鉱遺産ガイダンス施設の新設による影響、更には、既存施設においても増加傾向にある施設も一部見受けられます。

総体的には、CO2 排出量では対基準年度比で 23.05%の減少となりましたが、長期目標（令和 12 年度）は、基準年度比で 40.1%の削減を目標としており、施設の統廃合、照明器具の LED 化、省エネボイラーへの取替、電気自動車やハイブリッド車の導入促進、併せて太陽光発電などの再生可能エネルギーへの取組みについても進めていくことが求められます。

